



人生諦めたら、
女の子で
新世界スタート!?

「はあ……」

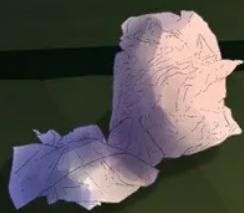
毎日毎日……同じことの繰り返し……

遅くまで仕事して、帰ったら適当に飯食って寝るだけ……

趣味に費やす時間もなければ気力もない……

なんで、俺は生きてんだ……？

「ふう……はあ……」
なんとなく、寝る前にスマホ見て……
ち●こ弄って、抜いたら寝る。
気がつけば朝だ……。



もう、俺に楽しい日が来ることはないのかな？
いつぞ……このまま……

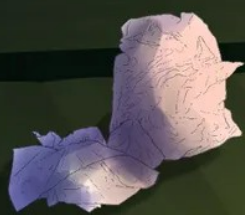
「はあ……」

ため息ばかり出るな……

「疲れた……寝よう……」

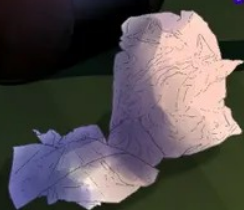
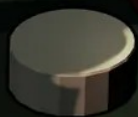
起きたらあの世だったら……いいな……

そうすれば……もう会社にもいかなくてすむし



睡眠薬って……大量に飲んだら……
●ぬんだっけ？
わかんねえや……
もうどうでもいいや……

サワシ……



やば……
気持ち悪い……
やっぱり飲みすぎると●ぬのかな……？
意識が……朦朧とする……
視界が……暗く……
「ああ……ああ……」
もう……ダメだ……



「あーん」

ん？

「もじもじ」

なんか…聞「える…

女の声…？

「聞「えん…」





誰……？

俺……どうなった……？

あの後……意識が朦朧として……

「起きた？」

そうじゃなくて……この声は……



「ふふ♡やあ♡」

「やっと起きてくれた♡」

「え……?」

誰……?

わからん……?



不思議な感覚だ……
俺の部屋に知らない女の人がいるのに
怖さも感じない……
感じるのは……謎の安らぎ……？
ああ……もしかして、俺……
あの後、●んで……迎えが来たって……か……
じゃあ、この子は……
「天使……？」

「天使？♡」

「あはは♡面白いいことを言うね♡」

「その逆だよ♡悪魔さ♡」

「君の願いを叶える代わりに命をもらいに来た」

「あのまま●なれたら、ちよつと勿体無いからね」

「私がお前にいただきに来たんだよ♡」

「え……？よくわからないですけど……」

「あなたは悪魔で、俺の命を取りに来た。」

「代わりに願いを叶えてくれるって……」





「ふふ♡ちゃんと理解してるじゃん♡」
「そっだよ♡1っだけ♡」
「君の願いを叶えてあげる♡」
なんでもいいや…
どうせ●ぬなら…
「わかりました…」



「話が早くて助かるよ♡」

「じゃあ、俺の願いは…♡」

「ああ言わなくてもいい♡」

「言わなくてももうわかってる♡」

「私は悪魔だ…なんでも知っているよ♡」

「きつと素敵な世界になるよ♡」

「事が済んだらすぐにも叶うさ♡」



「それじゃ…君の命をいただくんだけどね」
「デクノブレイクって知ってるかな？♡」
「この世界ではそんな言葉があるんだってね？♡」
「過度な射精でそのまま●んでしまうとか♡」
「この方法で命をもらおうよ♡」
「気持ちいい状態で●ねるとか最高だよね♡」

「でも…俺が死んだら」

「俺の願いつて…」

「ああ♡大丈夫♡」

「特に君の場合は♡」

「安心して●んでくれて構わない♡」

「悪魔はちゃんと約束を守るから♡」



「それじゃ……♡」

「おち●ち●…動たせるね♡」

「!？」

「なんだ……？」

「身体が急に火照ってきた……？」

「動悸も早く……なんだこの感じ……!」

「悪魔と今からエッチするんだよ……♡」

「君の意思とは関係なく命尽きるまで」

「興奮状態にさせてもらおうよ♡」

「たくさん気持ちよくなるうね……♡」

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ





「私の尻尾で「ン」「ン」してあげる♡」
「きゅん気持ちいい♡」
「自分でするより…すっごく…♡」
「あ…♡」
ち●こに何かが巻きついて…
これが…尻尾の感触？

ビュルルル

「ふふ♡不思議そうな顔してるね♡」
「尻尾でされる事なんてないもんね♡」
「出したくなったら出してもいいからね♡♡」





「はあ♡ふふ♡」

「気持ちいい♡♡」

「あつ……あ……」

「気持ちいい……なんだこれ……」

「やばい……これ……やばい……」

ぞくぞく……

くちゅん……

くちゅん……

くちゅん……

くちゅん……



「苦しそうだね?♡」

「我慢してる?♡」

「我慢なんてしないで...」

「気持ち良さに正直になっていいんだよ?♡」

「そしてびゅーびゅーって射精していいんだよ?♡」

「ほら♡ほら♡」

「おち●ち●...気持ちいいね♡」

「す●●♡」

くちゅ

ドキ

ドキ

びゅ

びゅ

びゅ

びゅ

くちゅ

す●●♡

くちゅ



「あつーがっはあ...」

「尻尾でシコシコされるの気持ちいいでしょ？」

「ほっ♡ムラムラ♡」

で、田んぼ...」

「息荒いよ♡」

「限界？♡出しちゃうっ♡」

「いっよっ♡たくさん出しちゃうっ♡」

どろろ...
どろろ...

ぐちゃぐちゃ
ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ
ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ
ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ
ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ
ぐちゃぐちゃ

どろろ...

どろろ...



「はあーっ」

「はあ♡田んね」

「私の尻尾でズンズンされて出ちゃってるね♡」

「気持ちいい…今までの中で…」

「はあ♡ああ♡おち●ち●が気持ちよすぎる♡」

「ズン♡ズン♡」

「ちゅぽ」

「びゅん」

「びゅん」
「びゅん」
「びゅん」
「びゅん」

「ちゅぽ」
「ちゅぽ」
「ちゅぽ」



「はあ…はあ…」

「流石に一回じゃ●ないよね？」

「もっとたくさん楽しみたいと♡」

「まずは…1回目♡」

「もっと沢山射精してね？♡」

はあ♡

はあ♡

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ



「次はお口でしてあげる♡」

「精子まみれのおち●ち●も綺麗にしないと♡」

「でも…あんなに出したから勃たないかも…」

「つてあれ…?」

「ふふ♡私、悪魔だよ?♡」

「悪魔の前でそんな事関係ない♡」

「●ぬまで勃起が止まらないから♡」

ぐんぐん

ぐんぐん



「安心して射精しまくってね?♡」

「はぁ♡精子のニオイ♡」

心拍数が上がっていくのがわかる…

本当にこの子は…

それに、これが夢じゃないなら俺は…



「はむ♡んん♡」

「うっ！ああ……！」

温かい……回の中……

啜えられるのってこんな感じなの……？

こんなに気持ちいいんだ……





「君のおち●ち●と私の口♡」

「どっちが強いかな?♡」

「それじゃ10秒我慢してね?♡」

「10秒耐えたら...」

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ



「うん」

「何がいいかな?♡」

「考えておいで?♡なんでも聞いてあげる?♡」

「それじゃスタートね♡」

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ



「はぁんっ〜」

「はぁんっ〜」

やばっ! こんなに!?

無理...無理...こんなのを...

耐えるなんて...!

ダメだっ! 出ちゃうっ!

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ



「んんっ!♡」

「あっ!はあああ!」

「やうきゅまっ♡」

んんっ♡

んんっ♡

んんっ♡

んんっ♡

んんっ♡



「はあ……はあ……」

「んんっ♡はあ……♡」

「一瞬じゃん♡」

「全然我慢できなかつたね?♡」

「……無理……です……」

「おま♡」

「おま♡」

「おっ♡」

「おま♡」

「びしょ」



「でもすごく濃くて美味しかったよっ♡」

「ちそうさま♡」

「はぁ♡あぁ…♡」

「まだまだこれからだよっ♡」

「ちよ…ちよっど…休ませて…」



「ダメだよ?♡」

「休むなんて♡」

「でも…こんな連続で…出した事…」

「それに…このまましたら…本当…」

「うん♡ぬね♡」

「だから最初から言ってるでしょ?♡」

「沢山射精して…●んで?♡」



「ほら♡ほら♡」

「次はま●こでイかせてあげる♡」

「まっ待って…♡」

「無理♡待てないよ♡」

クツ…勃起が治らない…

びんぽ

びんぽ



「悪魔とセツ●スできるなんてラッキーなんだよ?♡」

「君のつまらない人生で女の子とした事なんですよ?♡」

「最後に私と出来てよかったね♡」

「そうだ...俺の...人生...」

「確かに...なんで...こんな人生に未練があるみたいに...」

「最後に、気持ちよくなれて...●ねるなら...いいじゃん...」



「ふふ♡覚悟が決まったみたいなき感じ?♡」

「じゃあ…もう余計な事は考えずに…♡」

「気持ちいい事だけ考えよう?♡」

「…は…」

「それじゃ…入れるよ♡」

「はあ♡入ってくる……♡」

「うっ……くっ……」

「この包まれるような感じ……」

「これがま●この中……」

「口の中とは違う温かさにヌメリ……」

「俺は……この感覚を知らないまま●ぬつもりだったのか……？」

「ああ♡全部入ったよ♡」

「これでもう童貞じゃないね♡」

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

ふっ♡

ふっ♡





「どうっ？私の中……っ♡」

「すっごい……ま●の中……」

「全体から来るような圧力……」

「何もしなくても出そうになる……」

「こんな感じでおま●こに力を入れたり……♡」

「力を抜いたりするだけでも……気持ちいいでしょ？♡」

「……はい……あっ……」

びんぽん

ぐんぐん

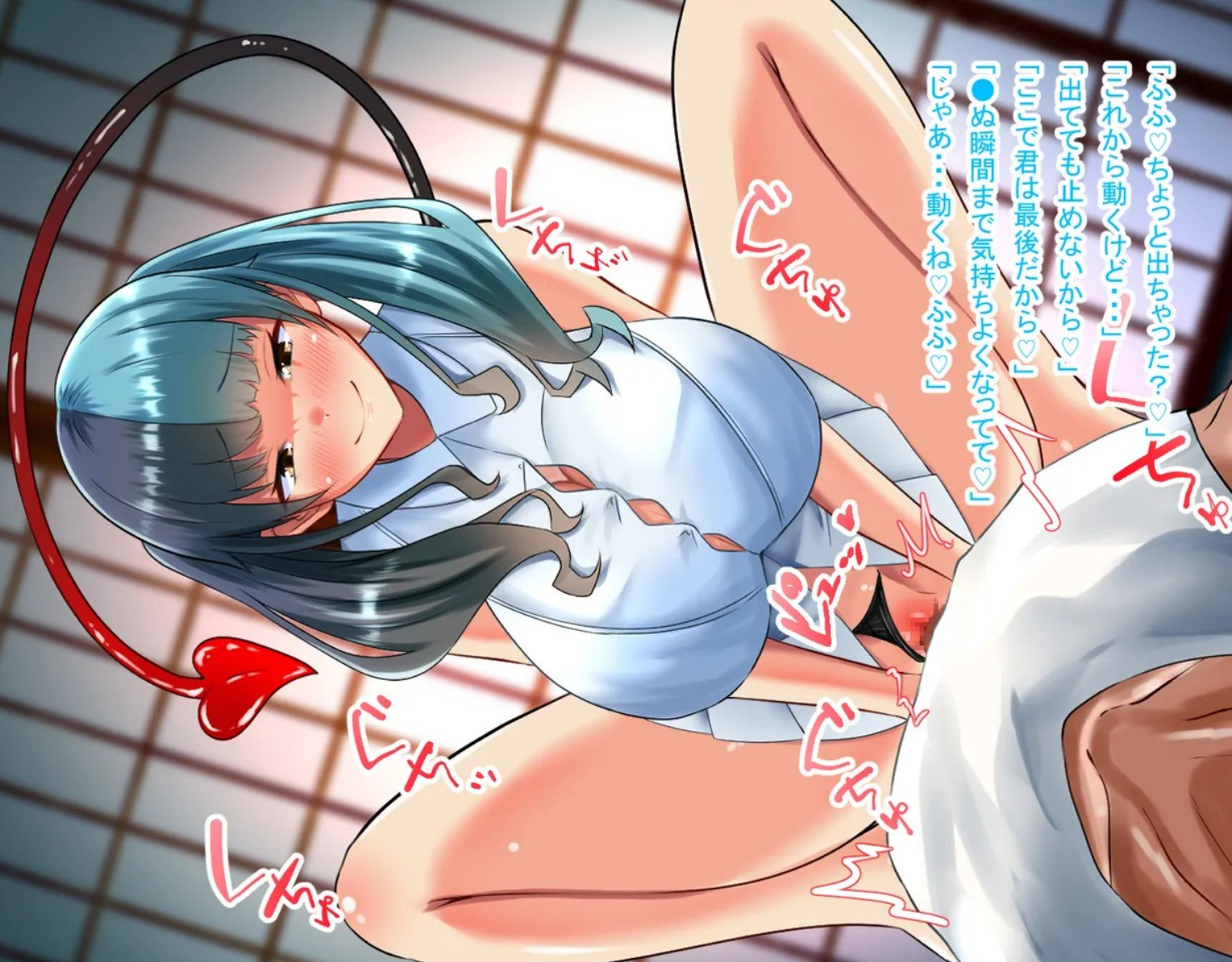
びんぽん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

「ふふ♡ちよつと出ちゃったっ♡」
「これから動くけど…」
「出ても止めないから♡」
「ここで君は最後だから♡」
「●ぬ瞬間まで気持ちよくなってる♡」
「じゃあ…動くね♡ふふ♡」



「ああ♡んんっ♡」

「おっ!!?うっ!!?」

「にひひ♡すごい?♡」

「おま●こがおち●ち●を舐めまわしてるよ?♡」

「気持ち良すぎて●んじやうかな?♡」

ダメだ…これは我慢なんてできない…

力が入らない…!!





「んんっ…♡」

「あはは♡出てる♡」

「おま●の中に精子がびゅーびゅーしてる♡」

「私の子宮めがけて出てるね♡」

「いっよ♡もっ♡とっ♡」

「あっ…あああああ…」

「んんっ♡」

「んんっ♡」

「んんっ♡」

「んんっ♡」



「あつああ…はあ…」

「すごい♡音がすくくエッチになってきた♡」

「愛液と精子が混じったエッチな音♡」

痛い…ち●こが痛い…のに…

気持ちいいが…ずっと…

もっと…出したい…

ま●この中にもっと出したい…!!



「あっ♡んんっ♡」

「もうおち●ち●がもっと大きくなった♡」

「おっぱいでさらに興奮したの?♡」

「かわいいな♡」

「ああ…意識が…遠く…」

「嫌だ…もっと…もっと…」



「ああああ♡」

「また射精♡♡」

「まだこんなに出してくれるの?♡」

「熱いのがどんどん入ってる♡」

もっと…セツ…ス…

セツ…ス…したい…

びん

びん

びん

びん



「まだ♡まだまだよ…♡」

「もっと…田っ♡」

「…」

声が…遠く…

「…」

「♡っ♡…田っ♡」

びゅんっ

びゅんっ

びゅんっ

びゅんっ



「♡びびり」

「♡おんげんげん」

「♡おんげん♡おんげん♡」

「……」

「もう……ダメかな……?♡」

「ふふ♡」

「楽しかったよ♡」

「さようなら♡」

「そっちの世界では元気だね♡」

「……」



「ああ……」

朝か……

変な夢を見た気がする……

どんな夢だったっけ……？

なんか、エロい感じだった気はするんだけど……

思い出せない……

キニ

キニ

「はあ〜」
学校か…めんどいな…
着替えて出ないと…





「ん？学校……？」
あれ……？
なんか違和感……？
私って……？私？
あれ……？なんか……段々……
思い出して……



「えええ!?!」

「あれ?あれ?」

「俺!?!わ、私!?!」

「身体!?!あれ!?!なんだ!?!」

「どういう状況だ!?!?」



あつ……まさかあの時の……
「きつと素敵な世界になるよ♡」
「事が済んだらすぐでも帰るよ♡」



100

「私が望んだ…世界…」
「マジか…じゃあ…」
「不思議だ…知らないはずなのに…」
「ここを知ってる気がする…」
「あつ…制服…」
「あれ…私のか…」



それにしても……

「やわらか……」

あの時は、見れたけど、触ることはできなかったな……

まさか、初めて触るおっぱいが自分のとは……

でも、これはこれでいい……

「学校…行ってみるか」
学校までの道もなぜだかわかる



「おお……」

本当に女の子だ……

すごい……これが私なんだ……

これからはずっと……

せつかくだからちよつと……

この身体を……

つて……時間ないじゃん!!

しょうがない……この身体は放課後にも楽しもう



「うん……」

制服を着るのが、うん……うん……

まるで、●……

学校に行けばもっとたくさんの……

「楽しみになってきた♡」





なんかすごいドキドキしてきた…

入っていいんだよね？

いつも通ってる場所の感覚なんだけど…

なんだこの不思議な感覚…

この感覚もすぐになれる気はするんだけど…



「あつ……」
「ん？」
すごい……本物のJ……



莉乃(りの)

栗(しずく)

「おー日向ーおはようー!」

「おはよう!」

「あっ…」

「この子たちは…」

「知らないはずなのに知ってる…」

「莉乃と栗だ…」

「お、おはよう…」



「今日はゆっくりだったね？」

「え？ああ……ちよっとね……」

「休むんじゃないって話してたんだよ？」

「あつ……なんで？」

休むわけじゃないじゃん……

女の子に会えるのに……



「だって、今日プールあるから」

「ダルいって思ってるかもって…な!」

「え? プール!?!」

「ん? ああ、先週から始まってるとはじゃん?」

「ああ…そ、そうだった…」



え？プール？
じゃあ、この子たちと……一緒に……？
マジ？本当に？
最高じゃん！？



「何？ニヤついて？」

「え！あつ！いや、べ、別に！」

「ん？なんか変だぞ？」

「大丈夫？」

「うん！全然！大丈夫！」

「そう？ならいいんだけど……」

やばい……まさか、プールがあるなんて……
どうしよう……すごいドキドキしてきた……
いいんですか？一緒にプールなんて



前まではそんなことあるわけもないし
最後に女の子と入ったのって…
子供の頃…だな…
早く時間にならないかな？



「日向」

「ん？」

「ほら、早く行くぞ？」

「休み時間のうちに着替えないと間に合わないよ？」

「あつ……うん」

着替え……？





あつーそうか！着替えがあるんだ！
そうだよな……水着に着替えないとだよな……

「やっとだな？」

「ええ……」

「ん？」



「日向、暑くねの？」

「やっど水で涼めるじゃん？」

「あっ……ああ……そうだね！」

「やばっ……心読まれたかと思った……」



「ふう……あつ……」
「おお……」
「●の生おっぱい……」
「ん……う……」
「早く着替えないと怒られるよ？」
「あつ……うん……き、着替えるよ」



ちよつと恥ずかしいな……つて
お、おおお、おま●こ!!
全裸!?!
目の前で女の子たちが……
やばい……こんなの勃っちゃう!!
つて……そうか、もう男の身体じゃないんだ!



「最近、また水着がきつくなったな……」
「お？またおっぱいデカくなった？」
「好きな人に毎晩揉まれてるのか？」
「うるさいな、そんなんじゃないよ」
「何このトーク……最高なんだけど……」



「莉乃だつて…最近大きくなってない？」

「ん？わかる？」

「はい感じに育ってきたよね〜」

「莉乃も…揉まれて…？」

「も」で…「一緒にしないでよ」

「ん？気になる？内緒♡」



「もう、教えてよ」
「気になる！気になる！
教えてくれ」
「●のその辺の事情！
「だいたい、日向」そ...」



「ひゃーっ」
「こんなに実らせて♡」
「あんたこそ、好きな人とやってんじゃない?♡」
「ちよ、ちよっ♡」

「アッ」
「アッ」
「アッ」
「アッ」

「アッ」



「ほら♡白状しな?♡」

「待って!そんな事...無いから!」

「触られる...結構激しめに...」

「莉乃の身体...柔らかい」

「こんな薄い布じゃ...ほぼダイレクトに感じる...」

ぞろ...

ぞろぞろ...

ぞろ!!

ぞろ♡

ぞろ...

ぞろ...



「わ、私…そんな経験…ない…んっ!」
「無い?♡本当かな?♡」

悪魔となら…でもあれはこの身体じゃなかった…
どうなるんだろ?

「ん?ん?怪しいな?♡」

「もしかして、今日、遅れてきたの?♡」

モジ

ハア

んっ

んっ



びく...

びく...

毛!!

毛!!

毛!!

びく...

「ち、違うー...そっじゃ無いからー」
「動揺してるっ♡」
「もしかして当たりかな?♡」
「日向も隅に置けないな♡」
「やる事やってるんだね♡」
「違ったら...」



ふんふん

「2人ともー」

「どうまでやるのさー」

「早くしないと怒られるよー」

「ああめめめめー行くよー」

「……うん」

やばい……このままだと変な気分になると……」

「日向」

「さー」

ふんふん

ふんふん

「何……これ？」

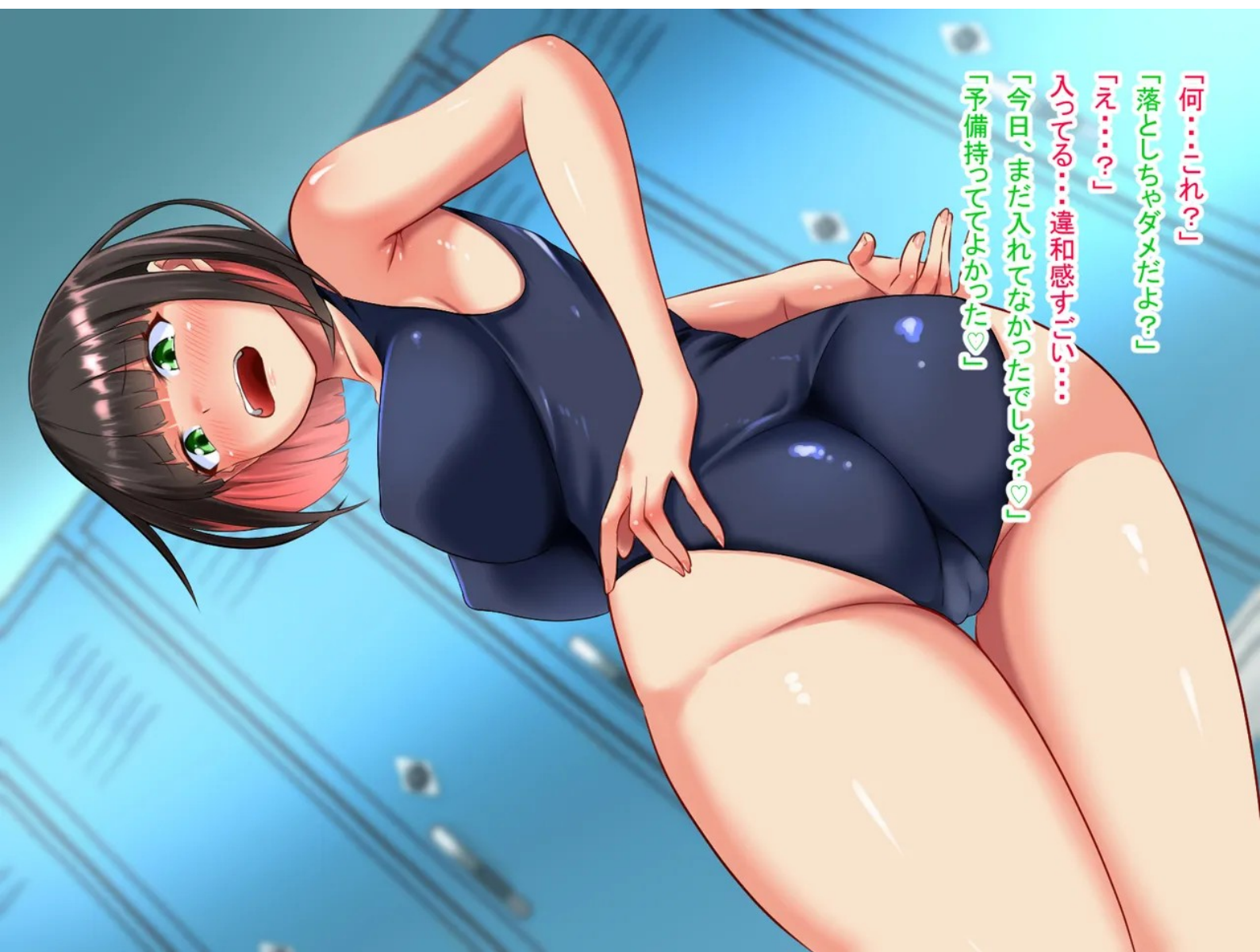
「落としちゃダメだよ？」

「え……？」

入ってる……違和感す……い……

「今日、まだ入れてなかったでしょ？♡」

「予備持ってたよ♡」



「授業中……これ耐えてね♡」

「なんで！？私が！？」

「この前決めたでしょ？♡」

「ほら♡行くよ♡」

そうなの……？そんだった気もする……

でも、バイブが……中にあるの……すごい変な気分……

大丈夫か……？





「はあり♡」

「気持ちいい♡」

「うう...」

「はは♡大丈夫?♡」

「結構効いてるね」



「この時間内でいつちやダメだよ?♡」

「頑張ってるね?♡日向♡」

「くっ……んっ!」

中で……すごい振動してる……

こんなに感じるもの?

声を出さないようにするので精一杯だよ……

きゅん♡

きゅん♡



この身体…もしかして…
結構敏感？それとも、女の子ってそうなの？
こんな身体でエッチなんてしたら…
どうなるの…？





「アッ!」

「くっ…ひびくっ…」

ダメっ!ダメっだ…!

キスッ…

ぐっ!

ぐっ!

ぐっ!

ぐっ!

ハッ!

ハッ!



「ん？♡」

「あら♡イっちゃった？♡」

「んんっ！」

「今日は耐えれなかった？♡」

「罰ゲーム考えないとな？♡」

「ふふ♡そうだね♡」

止めて…止めて…

びく

びく

びく

「日向♡♡」

「あの後すっとイキまくってたな♡」

「全然止めてくれないから…」

「みんなで並んでる時、ひとりだけビクビクしてるの面白かった♡」

マジで授業中、ずっと振動してるとは思わなかった…

頭がおかしくなると思った





「でも、前は莉乃がマット運動中に……♡」
「ああ！それは言うなよ！」
「え？」
「あれ？♡思えてない？♡」
「前転した途端にしおふk……」
「わあああ！黙れ！黙れ！」
え……しおふ……潮吹き……？

「じ、僕こそ……」

「ん？私は莉乃みたい派手イッてないよ？♡」

もしかして、今後こんな事が沢山……

「はいっ……思ってるよっ♡」

「ふふん♡楽しみにしてるよっ♡♡」

楽しみすぎる……！！



帰宅

今日はすごかった…

行ってよかった…

1日であんなに沢山の…





思い出すだけで……
お腹のあたりが熱く……
「はあ……はあ」
そう言えば……帰ったら……
するつもりだったな……

家なら……もう……
我慢しなくていいよね……
すっと、うずうずしてた……





「はぁ♡暑い♡」
自分の身体なのになんかイケない事してみたい…
やばい…これ…ドキドキす♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡



「ああ……♡」
「湿ってる……♡」
「すく……エッチだな……♡」
「はあ♡はあ……♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」

「くっ♡」

「おっ♡」

「おっ♡」



「あ♡はあ……♡」

「んっ……ああ……♡」

気持ちいい……♡

ヌルヌルで……おま●こも手も……お♡

全部気持ちいい……♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

自分でしてるのに...
こんなエッチな気分になるなんて無かった
いつも、なんとなくシコってたんだな...
こんな気持ちよく...してなかった...

ぐちゃ

ドキ

おまの♡

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

おまの♡
ドキ

ぐちゃ

ぐちゃ





「はあ♡はあ……♡」

「す♡♡……きもち……♡♡♡」

「ああ♡はあ……♡」

止めれない……かも♡

♡ちゅ♡

♡す♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡す♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡



「あんっ……♡」

「んんっ♡はああ♡」

どんどん……どんどん濡れる……

私……ひとりですごく……気持ちよくなってる……

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

莉乃…痺…

「はあ♡んんっ♡♡」

2人のことを考えて…私…オニーしてるよ…♡

2人ともっと…もっと…エッチなこと…したい♡♡」

「したい…♡エッチしたいよ…♡」

ぐちゃ

はっ♡ぐちゃ

ぐちゃ♡

びくん

びくん

ぐちゃ

ぐちゃ





「ひ、イクッ……♡」
「莉乃……痺……♡」
「イっちゃう……♡♡」
「んんっ♡はあ♡はあ♡」
「うんっ♡
やばい……やばい……」

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ

あゝ……



「んんっ! あああああ♡♡」
「気持ちいいいいいい!」

ぐんぐん
びしょ
びしょ

びしょ

びしょ
びしょ
びしょ

「はあ…はあ…」
「友だちで…いつちやった…」
「ひひ…明日も…」
「会いたいな…」
「この世界なら…ずっと楽しめるかも…」
「それに…私からも2人に…」

はあ♡

ドキ

はあ♡

くさ

びん

はあ♡

ドキ

はあ♡

びん



翌日

「今日も楽しい日になるといいな♡」
「さて、行くか♡」





「でさ〜」

「あはは！それはウケる！」

おっもう居るね〜♡

さて、朝のご挨拶に……



「おはようー」
「びっ…?」
うん♡いいお尻♡



「ひ、日向……」

「びっくりした……」

「ふふ♡そうっ♡♡」

「で、早くお尻から手離してっ♡」

「ん？よく聞「えなっ♡い♡」

「だから……手を……」

「ヤッ」

「ヤッ」



「んっ？」
「え？手を……♡」
「んっ♡」
ああ……すすすすしてて気持ちいい♡



「ちよつ……まじ……」

「ううん♡かわいいお尻だね♡」

「は、入ってる……入ってる……」

「ん？何？♡」

「ちゃんと喋ってこれないとわかんないよ……♡」

びく……

びく……

びく……

びく……

くちや

くちや

くち



しゅわ

しゅわ

しゅわ

「あれ？♡♡♡」
「んんっ♡♡」
「なんか…湿っほ♡♡」
「や、やめっ…んっ♡♡」
「だ、ダメっ…♡♡」



「ひひ♡」

「はあ…はあ…」

「日向…」

「ごめんね♡」

「あはは！朝から元気だね」



「莉乃！隙あり♡」
「え！？ちよっと…♡」
「朝の挨拶だよ♡」
「布」で触るおっぴろ♡
最高にえっちでいいね♡



「莉乃のおっぱい柔らかくて好きだな〜♡」
「わ、わかったから離せて…!」
「やだ♡こんなに触り心地いいの〜♡」
「もっとおっぱい触ってたい♡」

1P7

♡
E!

E!

1P7♡



「あんなり……触ると……んっっ！」
 「んん？♡触ると？♡♡」
 「エッチな気分になる？♡♡」
 「だめっ……だって……っ！」

はあ♡♡

はあ♡♡

毛！

毛！

毛！

ぞく……

はっはっ♡♡



「どうなるの??」

「教えて??」

「カリカリ」

「こんなに乳首勃たせて」

「あつ♡はあ…くっ♡」

ドキ

ドキ

カリ♡

カリ♡

びんぽ

びんぽ

カリ

カリ

カスバ



びくっ

「もうエッチな気分になっちゃった？」

「まだ朝なのに？」

「莉乃って変態なのかな？」

「お前な……っん！」

「いい加減に……」

— おお♡

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

— おお♡

びくっ

おっす♡

おっす♡



ドキ

ドキ

ドキ

「あー」

「はあ…はあ…」

「日向…お前…」

「もう知らねえからな…♡」

「ああ…莉乃？」

ドキ

ドキ



びく

びく

ムニユ

「もう私も我慢できないから……♡」

「んっ……ちよっ……」

「お前もいい胸してるよな？」

「教室……」

「ん？かまわねえよ♡」



「おーっ」
「おーっ」
みんなの前でーっ？
おかわりしてるの分かる…
…っっっっ



ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

「み、みんな見てるから……」
「見せつけやろうっやっ♡」
「どうせみんなも見たいって思ってるんだから♡」
アソコが熱くなってきた……
莉乃のも……伝わってくる……

ドキ



はぁ♡♡

はぁ♡
はぁ♡

はぁ♡

ズィ...
ズィ...

ズィ♡
ズィ♡

「はぁ♡はぁ♡」

「んっ♡ちよっと待って...」

「これ...恥ずかしいよ...」

「いいじゃん♡もっと恥ずかしいことになるんだから♡」

「擦り合ってるだけで...全身に電気が走るみたいだよ...」

ズィ♡



「もうダメっ♡」
「やめなくなってきた♡」
「日向……♡お前の責任だからかな？♡」



「はあ…はあ…」
「いいな…2人で…♡」
「んんっ…ああ…♡」
「ごめん…莉乃！」

ドキ

おまの♡

おまの♡

おまの♡

ドキ

ドキ

おまの♡

「おいおい...」

「我慢できない♡」

「私も気持ちよくなりたいから♡」

「どう♡♡日向♡」

「パンツ越しより生がいいよね♡♡」





「あつ♡ああ♡はあ♡」
「もうこんなになっているなら♡」
「すぐに気持ちよくなるね♡」
「ちよっ…し、雫…んっ♡」
「な、なんだこの状況…?」
「自分が撒いた種ってこと…?」

くちゅ
くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ



「すく熱くなってきた♡」

「でも…すくそれが気持ちいい♡」

「ん…」

「ああ♡はああ♡は♡」

「すく…♡」

「めっちゃ腰動いてるじゃん♡」

じゅわ

じゅわ

じゅわ

じゅわ

じゅわ

おめ♡

じゅわ



「みんなに見れながら……♡」

「私たち……エッチしてるよ♡」

「教室で……こんなこと♡」

「やばいね♡すくエッチ♡」

「はあ……あ♡ちよつとだけ……待って」

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ちゅん

はあ♡

はあ♡

はあ♡

ぐちゃっ

はあ♡



「ううん♡無理♡」

「もう止めないよ♡」

「このまま最後まで気持ちよくなりたい♡」

「一緒に最高に気持ちよくなるううん♡」

「ううん♡」

「ううん♡」

「ううん♡」

「ううん♡」

「ううん♡」

「ううん♡」

「ううん♡」

「ううん♡」



「好き♡日向♡」

「日向好き♡」

すごい…これ…

それに…雲が…

めっちゃかわいい…♡

こんな風に…犯される感じ…

意外と好きかも…♡

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ちゅっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ

「好き♡」

「好き♡」

「好き♡」

「好き♡」

「好き♡」



あれ？莉乃もなんか脱いでる！？

「私も…早く混ぜてよ♡」

「ふたりばかり気持ちよくなってるよ♡」

「ふふ♡いいよ♡」

「3人で気持ちよくなるう？♡」

はあ♡

ドキ

はあ♡

ドキ

くしゃ

くしゃ

くしゃ



「あっ♡おお♡」

「やばっ♡気持ちいい♡」

「朝からこんな気持ちいいことしてるなんて♡」

「おかしくなっちゃった♡」

びん

びん

はっ♡

びん

はっ♡

はっ♡

びん



ドキ

びい
ん

ドキ

おっ
♡

おっ
♡♡

んんんんん
んんんんん

「ダメっ♡もっ…♡」
「イっちゃっ♡♡♡」
「みんなの前でイっちゃっ♡おお♡」

ぐ
ちゅ

ぐ
ちゅ



「ひびひ」れす「ひひ」
「こんなにぐちやぐちやに♡」
「もう誰なのか…わかんないね?♡」
「♡♡…♡♡ぐちやぐちや♡♡」

ぞくぞく

ぞくぞく

ぞくぞく

ぞくぞく

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ



「んんっ♡」

「気持ちいい♡♡」

「頭おかしくなっちゃうね♡」

「もう今日は」のままで、ずっと♡」

「みんなでシテたい♡♡」

ぐちゃ

ぐちゃ

びん

びん

ぐちゃ

おあ♡

おあ♡

びん

おあ♡♡



「はあ♡ああ♡」
「す、すごい♡」
「こんなに気持ちいいの初めて♡」
「私も…もつと沢山…♡」
「沢山、エッチしたい♡」

ドキ

ドキ

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ



「みんなで…♡」
「みんなで一緒に♡」
「一緒にイ♡♡」
「もう…我慢できないよ♡」
「イクッ…イク♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

ぐちゃ♡

♡♡♡

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

♡♡♡

ぐちゃ♡

♡♡♡





「はあ…はあ…♡」

「んっ…ああ♡」

「じゅ…じゅ…」

「気持ち良かった…ああ♡」



「やばっ……♡」

「教室で……やっちゃったな……♡」

「これ……どうしよう……♡」

「私たち……とんだ変態だな……♡」



「もう……ぐっだっぐっだっ♡♡」
「気持ちよかったし……♡」
「またみんなでしちゃおうっ♡♡」



「日向……お前……相当変態だな……♡」

「莉乃もそうでしょ？♡」

「あはは♡」

「はあ♡面白……♡」

「この世界に来てよかった……♡」



「ちよひよー…何やひよのー…」

「あつー」

「先生！？」

「これは……」

楽しい生活になりそう……

ありがとう……悪魔……

グインガ



読んでいただきありがとうございます！

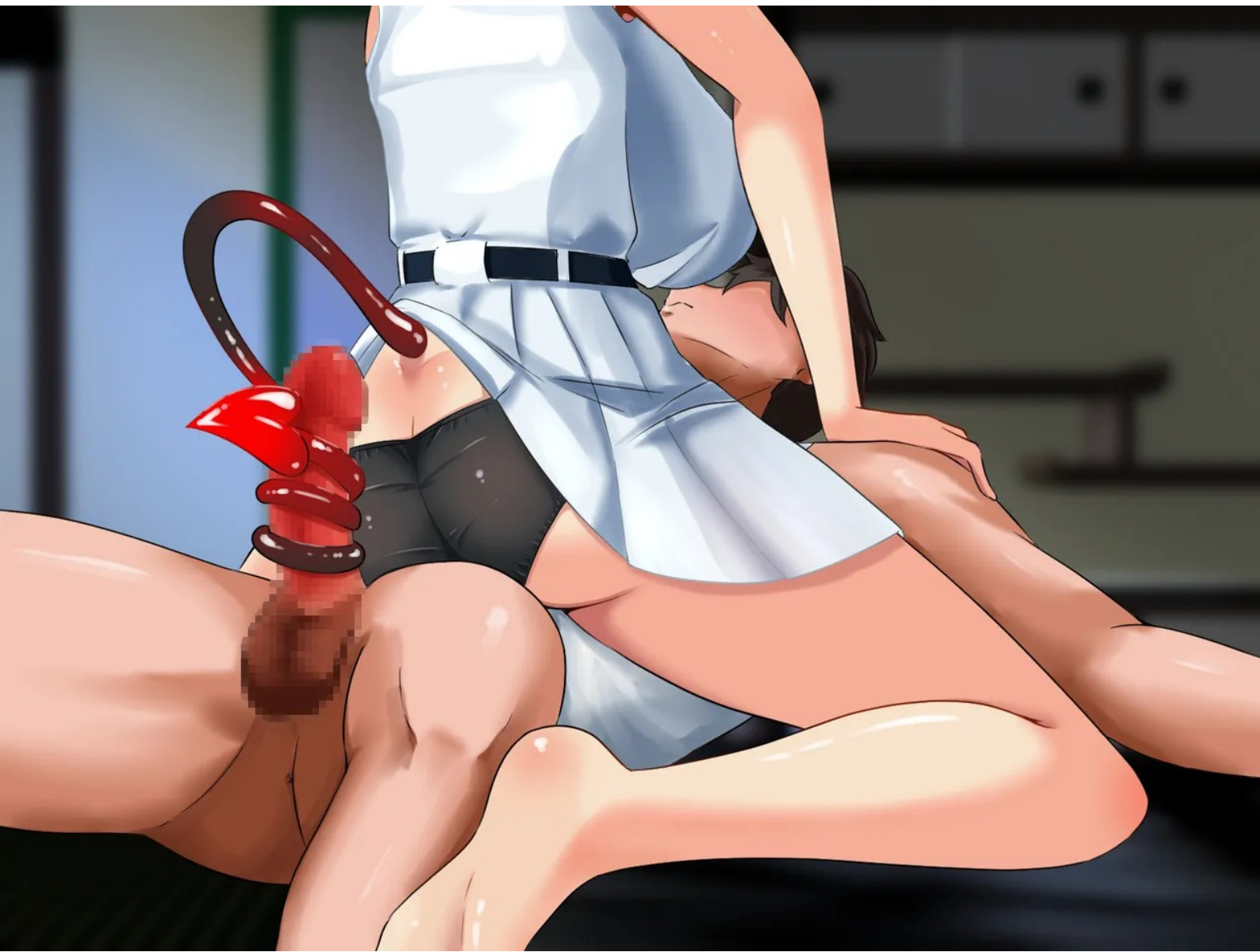
次のページは是非お読みください！

おへん

























































































































雫



莉乃



日向



悪魔